島の生きざま 世界が共感

「渾身」モントリオール上映 錦織監督最新作

隠岐の古典相撲を題材にした錦織良成監督の最新作「渾身（こんしん）　KON―SHIN」が、カナダで開かれた第36回モントリオール世界映画祭で上映された。相撲を通して描かれた人々の生きざまは高い評価と共感を呼び、「渾身」チームが授賞式のプレゼンターに指名される栄誉を得た。「主催者からの思わぬご褒美」と喜ぶ錦織監督にとって、大きな手応えを感じた世界映画祭となった。

授賞式贈呈役のご褒美も

作品は、世界各国の注目作を集めたフォーカス・オン・ワールドシネマ長編映画部門に招待された。題材にした隠岐の古典相撲は、同じ相手との2番勝負で先勝した力士は次の勝ちを相手に譲るのが習わし。映画では、島ならではの潔く思いやりにあふれた地域の営みを背景に、主人公夫婦のきずなが描かれている。

映画祭では、共通パスを購入した映画ファンが、気に入らない作品では途中に席を立つこともしばしばだが、「渾身」は3回の上映ごとに来場者が増加。最終上映後は深夜のロビーで感想を語り合う人々から、錦織監督は質問攻めにあったという。

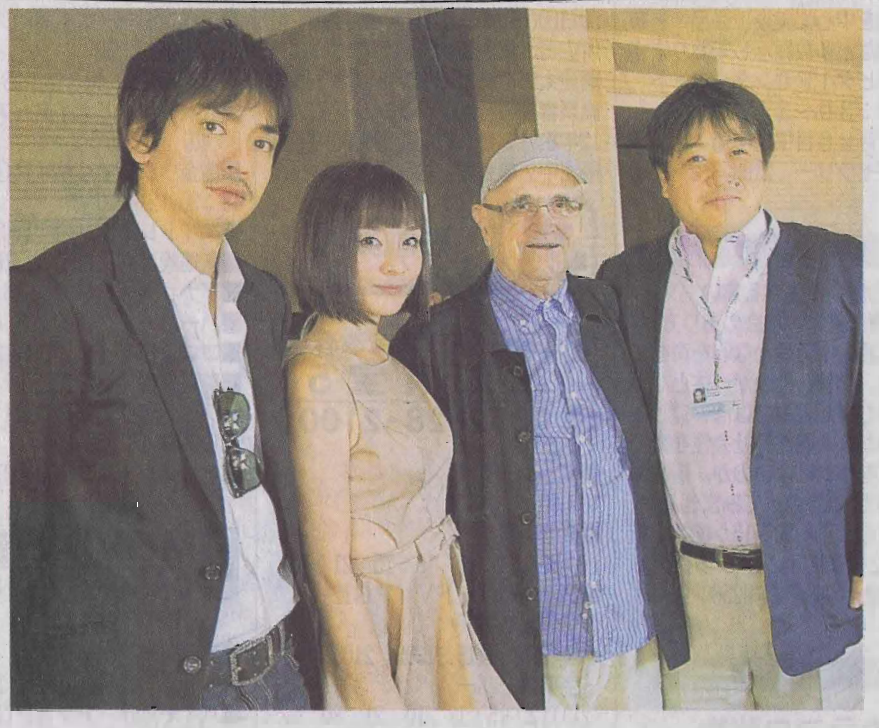
映画祭創設者のセルジュ・ロジーク氏には懇談に招かれ、「島の人々の生きざまが素晴らしく、黒沢映画のようなクオリティー」と称賛された。その評価から、コンペティション部門の授賞式で、主演女優賞のプレゼンターを「渾身」チームが務めるようオファーを受けた。

プレゼンターになった主演の青柳翔さんが「渾身」のタイトルとともに紹介されて登壇したことを、「日本の豊かさや人情があふれる隠岐の素晴らしさが伝わったことの表れ」と喜ぶ錦織監督。映画製作会社・出雲ピクチャーズ（出雲市平田町）での製作により、「自分たちの文化をきちんと伝えようという思いを貫けたことに感謝している」と話す。

ほぼ毎年作品を生み出し、監督業は順調だが、「やっとスタートラインに立った感じ。日本の原風景やコミュニティーが残っていることこそ最先端だと、作品を通して伝えたい」と意気込んでいる。

……

「渾身」は来年1月5日から山陰地区で先行上映し、同12日から全国ロードショー。10月20日に開幕する東京国際映画祭への特別招待も決まっている。



モントリオール世界映画祭の創設者セルジュ・ロジーク氏（左から3人目）から自室に招かれ、作品を称賛された錦織良成監督（右端）と主演俳優の青柳翔さん（左端）、伊藤歩さん